

「こども食堂ネットワークかぬま」の構築

こども食堂ネットワークかぬま



取組をはじめたきっかけは何ですか？

こどもの貧困が盛んにニュース等に取り上げられ、鹿沼市内にはひとり親家庭が多くあり、こどもたちが安心して食事と学習支援を受けられる居場所をつくりたいとの思いから、2017年10月に初めて鹿沼市にこども食堂第1号が誕生しました。

2018年には数か所が設立し、現在栃木県内にあるこども食堂の約5分の1が鹿沼市内で活動をしています。

一つひとつのこども食堂では食材や物資が余ってしまうこともあり、こうした食材のリサイクル運動も視野に入れ、人とモノを循環させたいという思いから、こども食堂のネットワークとして「こども食堂ネットワークかぬま」は誕生しました。

どんな取組を行っていますか？

現在、2021年に新規開設予定のこども食堂を含めた10団体で構成されています。

月1回の定例会や他団体との連携を推進し、鹿沼市社会福祉協議会やJAかみつが、市内の企業からの協力を得て、野菜や鶏肉、調味料などの提供を受け入れ、各こども食堂への配布などを行っています。

各団体でこども食堂の開催日をずらすなどの調整を行うことで、利用者はいつでもこども食堂を利用することができ、こども食堂側は余った食材の融通などを

行うことができるようになりました。

また鹿沼市社会福祉協議会から、ネットワークかぬまのこども食堂ならどこでも無料でお弁当が予約できる共通無料食事券の配布などのご協力をいただいています。月1回の定例会では、鹿沼市社会福祉協議会の方にも出席していただき、食材の循環だけでなく情報の共有の場として、送迎が必要な家庭への対応や困っている家族へケアの方法などを話し合い、よりよい対応ができるようにしています。

こども食堂の新規立ち上げにも協力しており、2021年鹿沼市内には新たに2つのこども食堂がスタートします。このほか、近隣の日光市でもこども食堂の立ち上げの手伝いをしています。

コロナ禍の状況下で本当に支援を必要としている家庭への支援を途切れさせないよう、鹿沼市とも連携し、食事支援や配食などを行いました。現在は、一律300円でお弁当の提供を行っています。

取組を行う際のポイント

- 各こども食堂との密なるネットワーク(月1回の定例会をリモートではなく実際に会っての会議)。
- 食材は、できるだけ無駄にせず次の曜日のこども食堂に廻す。

●こども食堂同士の関係性がよい(事業を一緒にしたり、補助金申請を一緒に作り上げたりする)。

これからの活動について

県内でもこども食堂がネットワークを形成している事例は珍しいと聞きます。

「こども食堂ネットワークかぬま」は地域のこども食堂をサポートし、他団体との連携、こどもたちへ安心安全な居場所を提供、たくさんの人たちと出会う場になるようにしていきたいと考えています。

また、こども食堂を多くの人に知ってもらい、こども食堂の理解者を増やしていきたいと考えています。



こども食堂のチラシ

こども食堂ネットワークかぬま

- ◆場所 鹿沼市仁神堂町344-1
(事務局:こども食堂 森のこびと内)
- ◆所属食堂

・こども食堂 森のこびと	鹿沼市仁神堂町
・より処 たけのこ	鹿沼市上殿町
・こども食堂 こっこん村	鹿沼市千渡
・こども食堂 ノエル	鹿沼市縦山町
・こども食堂 ようぎ	鹿沼市万町
・こども食堂 晴れるや	鹿沼市緑町
・東部台子ども食堂	鹿沼市緑町
・こども食堂 めだかの学校	日光市今市
2021年開設	
・ゆうゆうこども食堂	鹿沼市榎木町
・こども食堂ピュルテ	鹿沼市睦町

貧困を抱える若者や家庭のケアを、民間レベルで 当たり前ができるように、ボーダレスの社会をつくっていききたい



「 貧困を抱える若者や家庭のケアを民間レベルで当たり前ができるように、ボーダレスの社会をつくっていききたいと考えます。ネットワークの事務局を担当する縁の下の力持ち加藤美智子氏と共に、市行政、市社会福祉協議会、JAかみつが青年部、市内若者支援事業所等と友好関係を築き、今後も協働のまちづくりを積極的に推進してまいります。」

こども食堂ネットワークかぬま 代表 大出 治夫

団体概要

法人名 | こども食堂ネットワークかぬま
所在地 | 鹿沼市仁神堂町346-2
代表 | 大出 治夫

事業内容 | 鹿沼市内のこども食堂のネットワーク構築、運営サポート等

評価のポイント

社会福祉協議会やJA、農家などのさまざまな関係者を巻き込んで、こども食堂の横展開が図られ、単なるこども食堂の運営ではなく、こども食堂のネットワーク化を図っているということが評価されました。